

指定管理者評価シート

事業名	札幌芸術の森等運営管理費	所管課(電話番号)	市民文化局文化部文化振興課(211-2261)
-----	--------------	-----------	-------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌芸術の森 本郷新記念札幌彫刻美術館	所在地	【札幌芸術の森】 南区芸術の森2丁目 【札幌彫刻美術館】 中央区宮の森4条12丁目
開設時期	【札幌芸術の森】 昭和61年7月 【札幌彫刻美術館】 昭和56年6月	延床面積	【札幌芸術の森】 389,653.82㎡(敷地面積) 【札幌彫刻美術館】 本館374.10㎡、記念館437.07㎡
目的	<p>【札幌芸術の森】 芸術文化都市さっぽろのシンボルとして、個性ある新しい札幌文化を育てることを目指し、「制作・研修機能」、「情報・交流機能」、「鑑賞・発表機能」を持つ新しい芸術文化の場を創出し、札幌が誇りとする豊かな大自然と、都市、芸術、文化が調和した環境の形成を目的とする。</p> <p>【札幌彫刻美術館】 本市ゆかりの彫刻家である本郷新の業績を顕彰するとともに、本市における彫刻を中心とした美術の振興を図り、市民の文化芸術活動の発展に寄与することを目的とする。</p>		
事業概要	<p>【札幌芸術の森】 札幌芸術の森園内各施設の管理運営、札幌芸術の森園内各施設を活用した各種芸術文化振興のための主催事業の実施。</p> <p>【札幌彫刻美術館】 美術に関する展覧会及び美術振興のための主催事業の実施並びに施設の管理運営。</p>		
主要施設	<p>【札幌芸術の森】 芸術の森センター、札幌芸術の森野外美術館、佐藤忠良記念子どもアトリエ、札幌芸術の森美術館、アートホール、工芸館、各種工房、各種アトリエ、有島武郎旧邸、野外ステージ等</p> <p>【札幌彫刻美術館】 本館:ギャラリー、展示室1~5、研修室、屋外展示スペース 記念館:展示室1~4、ロビー</p>		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市芸術文化財団		
指定期間	平成30年4月1日~令和5年3月31日		
募集方法	<p>非公募</p> <p>非公募の場合、その理由:札幌芸術の森は札幌市における文化芸術振興の中核となる施設の1つであり、指定管理者には施設の特性を活かした多様な事業を継続して実施するための専門的知識や経験、幅広いネットワークが必要であるとともに、管理運営に当たっては、長期的な視野に立った継続的な事業運営や人材育成、ノウハウの蓄積などが特に必要となるほか、施設における事業内容の企画立案等を本市と指定管理者とが一体となって行う必要があることなどから、非公募とした。</p> <p>彫刻美術館は、(財)札幌彫刻美術館と(財)札幌市芸術文化財団との統合の経緯から、芸術の森との一体的管理が必要であり、団体と施設の関係が密接不可分にあること、また、施設における事業内容の企画立案等を本市と指定管理者とが一体となって行う必要があることなどから、非公募とした。</p>		
指定単位	<p>施設数:2施設</p> <p>複数施設を一括指定の場合、その理由:施設の設置目的が類似し、事業領域が関連している札幌芸術の森と札幌彫刻美術館を一体的に管理していくことにより、管理面での経費節減効果が期待できるとともに、両施設の連携を更に深め、より魅力的な事業や、美術の普及振興を図ることが可能であることから、札幌芸術の森と彫刻美術館を一括し管理している。</p>		
業務の範囲	施設維持管理業務、貸館業務(利用料金制度)、施設における事業の計画及び実施に関する業務		
3 評価単位	<p>施設数:2施設</p> <p>複数施設を一括評価の場合、その理由:2施設を一体的に管理しており、指定管理費についても両施設で一体となっていることから、一括評価としている。</p>		

II 30年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価								
1 業務の要求水準達成度											
(1)統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>【札幌芸術の森】 芸術文化都市さっぽろのシンボルとして、個性ある新しい札幌文化を育てることを目指し、「制作・研修機能」、「情報・交流機能」、「鑑賞・発表機能」を持つ新しい芸術文化の場を創出し、札幌が誇りとする豊かな大自然と、都市、芸術、文化が調和した環境の形成を目的とするため、次の5つの基本方針を策定している。</p> <p>①札幌芸術の森の特性を活かした魅力ある多彩な事業の実施 ②芸術を担う人材育成と芸術を通じた人づくり ③自然と調和した事業展開と場づくり ④人と人が出会い、つながる交流の場としての機能の充実 ⑤安全で利用しやすい施設づくり</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】 札幌出身の彫刻家・本郷新の顕彰、及び彫刻を中心とした美術の振興を図り、本郷新の残した作品・施設や生前の意思を引き継ぎつつ、幅広い年齢層を対象に美術館の運営をさらに進展させるため、次の4つの基本方針を策定している。</p> <p>①本郷新の顕彰及び関連情報の収集・保存・公開 ②彫刻を中心とした芸術文化の魅力を積極的に発信 ③利用者の拡大と次代の担い手の育成 ④市民に開かれ、立地環境を活かした施設運営</p> <p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>【札幌芸術の森】 利用受付は、利用者間の公平を図る観点から、受付開始日、締切日及び開始・終了時刻を定めているほか、受付は先着順とし、全ての利用者に対して公平な受付業務を行った。 受付の流れ、関連規則、施設の空き状況についても、利用者の要望に応じながら、分かりやすく十分に説明をするよう心がけた。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】 平等利用を確保するために、その方針及び取組項目を検討するとともに、研修会等を通じて、留意事項等について職員相互に基本的な考え方や心構えを確認した。</p> <p>▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進</p> <p>【札幌芸術の森】 「札幌市生活環境の確保に関する条例」に基づき、不要な電気・水・ガス・灯油等の節約に努め、二酸化炭素排出の抑制に取り組んだ。</p> <p>▼ 冷暖房について 昨年度に引き続き、昼休み時間や終業時刻以降の冷暖房運転をカットし、設定温度を夏季28℃、冬季20℃で運転するなど、燃料の節約に努めた。クールビズ・ウォームビズを促進した。</p>	<p>第4期指定管理期間において、札幌芸術の森の設置目的を実現するための基本方針とすることができた。</p> <p>本郷新記念札幌彫刻美術館の設置目的を実現するための基本方針とすることができた。</p> <p>関連規則に従い、利用者への公平性を保ちながら受付業務を行うことができた。</p> <p>関連規則に従い、利用者への公平性を保ちながら受付業務を行うことができた。</p> <p>省エネについては人工滝揚水ポンプの週末限定運転や照明設備の間引き点灯、冷暖房の一部カットなどの対策を行い、特に電力は、日頃から使用量の管理に務めた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td style="background-color: yellow;"></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>両施設とも、運営協議会や来館者アンケートによる意見を踏まえた業務改善や事業展開を図っており、サービスの向上に努めている。 また、前年度比で、消費エネルギーが減少しており、様々な節電等対策や環境に配慮した取組により、本市の要求水準を満たす適切な管理が行われている。</p>	A	B	C	D				
A	B	C	D								

▼ 節電について

- ・従来より実施しているセンター事務所の照度50%設定やセンター、アートホールロビー等の照明設備間引き点灯を継続して実施した。事務所については休憩時間や不在時の消灯を徹底する等、更なる節電に努めた。
- ・従来より実施している、野外美術館シンボル彫刻の前の人口滝揚水ポンプの週末限定運転を引き続き実施するなど、消費電力の削減を図った。
- ・電力需要がひっ迫する野外ステージの大型イベントの開催時に自家発電を用意し、電力デマンドのピークカットに努めた。
- ・余分な電化製品のコンセント抜く等、待機電源の削減に努めた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

「札幌市生活環境の確保に関する条例」に基づき、不要な電気の使用を控えるとともに、水、灯油、ガス等の節約に努め、二酸化炭素排出量の低減に努めた。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

【札幌芸術の森】

▼ 管理業務の一層の効率的運用、中長期での組織運営のあり方などについて検討し、必要に応じた適切な採用・適正部署への配置を行った。

▼ 統括責任者として芸術の森事業部長を、職務代理者として芸術の森事業部管理課長を配置している。

▼ 芸術の森美術館に、学芸員の資格を有する職員6人を配置している。

▼ 各職員の習熟度に応じた計画的な研修を行い、スキルアップに努めた。

≪4月≫

・新規採用職員研修 個人情報保護・セクシャルハラスメント防止研修

・新規採用職員研修 接遇研修(ビジネスマナー)

≪8月、1月≫

・年金とライフセミナー

≪10月≫

・新規採用職員研修 個人情報保護・セクシャルハラスメント防止研修

≪11月≫

・パソコン研修

≪1月≫

・新規採用職員研修 個人情報保護・セクシャルハラスメント防止研修

・新任課長職研修

≪1月、2月≫

・コンプライアンス研修

≪3月≫

・管理職マネジメント研修

・環境マネジメント研修

冷暖房の運転に使用する重油や、灯油についても、前年度比で約1%の削減となった。各機器の運転を細かく制御したことで良い効果が得られた。

暖房器具・照明等の使用を抑え、節電に努めることができた。

配置計画に関しては、職員との面談等を通じ適性を考慮しながら適切な職員配置を行った。

業務の効率化に加え、職員の業務に対する意識向上の動機づけを図ることができた。

また、札幌彫刻美術館と合同で研修を開催し、職員の積極的な参加を促すことで、職員の資質向上に努めるとともに、業務に対する意識を高めることができた。

また、前年度に引き続き、全職員必須研修として、コンプライアンス研修を行うなど、服務規律の確保について職員の意識向上に努めた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 統括責任者として彫刻美術館課長を、職務代理者として彫刻美術館業務係長を配置しているほか、業務分担、連絡系統等を定めた。

▼ 本郷新記念札幌彫刻美術館に、学芸員の資格を有する職員2人を配置している。

▼ 各職員の習熟度に応じた計画的な研修を行い、スキルアップに努めた。札幌芸術の森との合同で職員研修を行うほか、館独自で現場研修や各展覧会ごとにパート職員を含めた研修を実施した。

《4月》

・新規採用職員研修 個人情報保護・セクシャルハラスメント防止研修

・新規採用職員研修 接遇研修(ビジネスマナー)

・現場研修 加藤宏子展

《6月》

・現場研修 アートスクール展

《7月》

・現場研修 オペラの衣裳展

《8月、1月》

・年金とナイスライフセミナー

《9月》

・現場研修 運営方針・美術館運営

《10月》

・新規採用職員研修 個人情報保護・セクシャルハラスメント防止研修

・職場外研修 彫刻表現・技法

・現場研修 防災・救急処置

《11月》

・パソコン研修

・現場研修 本田明二展

《1月》

・新規採用職員研修 個人情報保護・セクシャルハラスメント防止研修

・新任課長職研修

・現場研修 本郷新の異国展

《1月、2月》

・コンプライアンス研修

《3月》

・管理職マネジメント研修

・環境マネジメント研修

・職場外研修 学芸員業務

▼ 事業内容や運営の実務については、美術館内の会議を通して職員間での共通理解を図った。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

【札幌芸術の森】

▼ 財団内LANIによるグループウェアソフトを活用し、事業部内及び財団全体の職員間の情報共有を行った。

▼ 園内に点在する施設間においても、来園者と接する機会の多い常駐委託業者(受付、警備、施設設備管理、清掃)と職員間で、上記グループウェアソフトや内線、携帯電話による連絡網もあわせて活用した。

配置計画に関しては、職員との面談等を通じ適性を考慮しながら適切な職員配置を行った。

各職員の資質の向上のため、機会をとらえて職場内外の研修会や講習会への参加を進めるとともに、実務を通じた現任訓練も必要の都度実施した。

美術館内の会議を適切に実施し、事業内容や各担当業務に関する情報の共有を図った。

事業部間や事業部内での情報共有をスムーズに行うことで、来園者へのよりきめ細かな対応を行うことができた。

▼ 安定した管理体制と来園者へのサービス向上を目指し、職員と常駐委託業者が事故や問題点、今後の予定などお客様対応に必要な情報共有や意見交換を行うための会議を毎週、実施した。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 財団内LANによるグループウェアソフトを活用し、美術館内及び財団全体での情報共有を行った。

事業部間や事業部内での情報共有をスムーズに行うことで、来館者へのよりきめ細かな対応を行うことができた。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

【札幌芸術の森】

▼ 計画書、仕様書に基づき、清掃、庭園管理等の業務を専門業者へ再委託し、適正な業務遂行を実施した。

規程類に基づき、適切な契約を行った。

▼ 第三者に対する委託に関して、入札等による適切な契約を行うことにより、経費節減と業務内容の充実と向上に努めた。なお、一部の経費節減等が期待できる業務については、複数年契約を締結した。

▼ 受託者の業務については立会を行うとともに作業完了報告書の確認と業務内容の検査を実施し、適正な業務を遂行させることができた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 計画書、仕様書に基づき、庭園管理等の業務を専門業者へ再委託し、適正な業務遂行を実施した。

規程類に基づき、適切な契約を行った。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

【札幌芸術の森】

▼ 札幌芸術の森施設運営協議会の開催

開催回	協議・報告内容
第1回 7月5日	・平成30年度管理運営業務の経過報告について(施設利用状況・主催事業) ・平成30年度運営協議会の方針について
第2回 10月19日	・平成30年度管理運営業務の経過報告について(施設利用状況・主催事業) ・グループディスカッション(野外美術館の活性化について)
第3回 12月20日	・平成30年度管理運営業務の経過報告について(施設利用状況・主催事業) ・グループディスカッション(冬の芸森の集客について)
第4回 3月14日	・平成30年度管理運営業務の経過報告について(施設利用状況・主催事業) ・第2回理事会の報告について(次年度事業計画について)

当施設の運営について、主催事業や貸施設、広報等の多岐にわたり、様々な分野の方々からご意見をいただいた。

平成30年度は、前年度にグループディスカッションで出されたアイデアを踏まえ、当施設の利用促進に向けた具体的な議題を設定し、対話型のグループディスカッションを開催し、活発な意見交換を行うことができた。

また、提示されたアイデアの中から、かんじきウォークに新たにゲーム性を持たせるなど実現可能なものから着手し、来園者ニーズの把握に努めた。

<p><協議会メンバー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域：芸術の森地区まちづくりセンター所長 ・利用者：施設利用者 ・有識者：放送局部長、新聞社部長、旅行会社担当課長、札幌市立大学教授、広告代理店役員 ・ボランティア団体：野外美術館解説ボランティア ・札幌市：市民文化局文化部長 ・指定管理者：芸術の森事業部長
--

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 本郷新記念札幌彫刻美術館施設運営協議会の開催

開催回	協議・報告内容
第1回 6月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30～34年度運営方針 ・平成30年度事業計画 ・意見交換
第2回 10月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度第1回理事会報告 ・平成30年度事業中間報告 ・平成30年度入館者アンケート集計結果中間報告 ・各種規程、要綱、マニュアル等の策定 ・意見交換
第3回 12月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度事業中間報告 ・平成31年度事業の企画状況 ・意見交換
第4回 2月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度事業経過報告 ・入館者アンケート集計結果 ・平成31年度事業予定について ・意見交換

<p><協議会メンバー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域：宮の森まちづくりセンター所長 ・利用者団体：札幌市立大倉山小学校PTA副会長 ・地元自治会：宮の森明和会会長 ・学識経験者：札幌市立三角山小学校長 ・財団評議員：彫刻家 ・札幌市：市民文化局文化振興課長 ・指定管理者：彫刻美術館館長(芸術の森事業部彫刻美術館課長)

当施設の運営について、多岐にわたり様々なご意見をいただいた。意見交換を活発に行い、地域利用者、専門家の意見、評価を直接聞くことができた。いただいた意見を広報、事業企画に積極的に活かした。

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

【札幌芸術の森】

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。また、内部監査やセルフモニタリングにより、当財団管理施設をまたいだ相互的なチェック体制を導入している。

資金管理、現金等の取扱いについては、管理体制を整備することにより、チェック機能を確保した。

<p>▼ 現金等の取扱いについては、現金取扱要綱を整備しており、出納員及び分任出納員による一元管理を行っている。また、複数職員でのチェックを行うことで、事故防止に努めた。</p> <p>▽ 要望・苦情対応</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>▼ お客様からの要望・苦情については、速やかに担当課及び関連部署の職員間で、文書や財団内LANによるグループウェアソフト等で情報共有を図り、対応確認を行った。指摘事項に関しては、担当者間で協議し、利用者の利便性を優先した迅速な対応に努めた。</p> <p>▼ 札幌芸術の森ホームページから送信されるお問い合わせについても、関係部署で情報共有を図り、回答した。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 要望・苦情のあった際は職員間で情報を共有し、迅速に検討・対応した。</p> <p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 指定管理業務に関する下記の記録・帳簿等については適切に整備保管した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理業務に関する諸規程 ・文書管理簿 ・各年度の事業計画及び事業報告書 ・収支予算・決算に関する書類 ・金銭出納に関する帳簿 ・物品の受払いに関する帳簿 ・各種業務に関する記録書類及び札幌市が必要と認める書類 <p>▼ セルフモニタリングについては、来園者、利用者の満足度を測定するため、アンケート調査を実施した。また、セルフモニタリングや業務・財務検査を通して管理運営に関する自己チェックを実施した。</p> <p>▼ 札幌市による施設の管理運営に関する検査等へは誠実に対応した。</p> <p>▼ 自己評価の実施については、施設の利用状況、主催・自主事業の実施状況等について、毎年度、事業報告書と合わせて札幌市に提出する。</p>	<p>来園者からの要望に対しては、真摯に受け止め、可能なものは迅速に改善するよう努めた。</p> <p>来館者からの苦情・要望に対しては、職員間で情報を共有し、適切に対応することができた。</p> <p>業務実績の整備・保管を適切に行うことができた。</p> <p>施設運営の維持・改善のため、来園者にアンケート調査を実施し、寄せられたご意見については、速やかに検討し、可能な限り改善した。</p> <p>施設管理に関する市民からの要望・苦情については、誠実に対応し、札幌市と情報を共有した。</p>
--	--

<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <p>【札幌芸術の森】 【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 適正な内容で36協定を締結したほか、雇用環境の維持向上のため、関係法令に基づき財団諸規則等の見直しをおこない、労働基準監督署に届け出た。</p> <p>▼ 給与の額や支給方法等の雇用条件については、財団の例規として、職員、契約職員、パート職員の各々について就業規則を定めているほか、職員については別途給与規程を制定し明示している。これらを変更する場合には職員の過半数を代表する者の意見を聴取し、行政官庁への届出を行っている。また、賃金台帳など法定帳簿等も整備している。</p> <p>▼ 就業規則を含む例規集は、財団内LANにより、常に各職員が閲覧可能な状態としている。</p> <p>▼ 毎月の給与の計算や社会保険・労働保険関係の各種手続き等は、財団の総務部署を通じ、社会保険労務士事務所に委託しており、労働関係法令改正への対応についても、社会保険労務士と相談して行っている。</p> <p>▼ 労働安全衛生法及び当財団衛生委員会要綱に基づき衛生委員会を開催し、衛生管理者、産業医とともに労働災害の防止、職員の健康管理及び職場環境の向上に努めている。</p> <p>▼ 産業医の選任のほか、顧問弁護士も導入しており、これらの専門家による、心身の健康面、雇用、仕事以外の相談を含めて個別相談にも応じる体制を採っている。</p>	<p>36協定の内容を遵守するよう、長時間労働の状況把握及び業務配分等に取り組んでいる。</p> <p>雇用環境については、繁忙期と閑散期があることを踏まえ、業務の効率化や人員体制の補強を行うなど、環境を整えるよう配慮している。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>労働関係法令に則した運用がなされているものの、一部に長時間労働の実態が認められることから、業務効率化や人員体制の補強など、雇用環境の向上に引き続き取り組んでいく必要がある。</p> <p>なお、財団全体として雇用環境の維持向上を図るため、さまざまな取組を進めており、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</p>	A	B	C	D				
A	B	C	D								
<p>(3)施設・設備等の維持管理業務</p>	<p>▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>▼ 利用者の安全確保に関して、施設の外観や設備の定期的な点検・維持管理を行うとともに、2019年4月に芸術の森敷地内で常駐業者の作業車両が散策者にケガを負わせる交通事故が発生したことを受け、常駐の設備管理員や警備員、清掃員ならびに出入りするその他委託業者等に対して、来園者への安全配慮の徹底を依頼し、事故等の発生の事前回避に努めた。</p> <p>また、定期的に週1回の施設連絡会議を実施し施設管理に係る情報共有に努めた。</p> <p>▼ 熊進入対策では、電気柵の維持管理について、専門業者による早期の設置と定期点検のほか、職員による目視点検を行い、柵の維持や異変の早期発見に注力した。周辺で熊の出没情報が出た場合は、警備巡回数を増やし異常の早期発見に努めた。</p>	<p>利用者の快適性、安全性を維持するため、各業者と連携を密にしながら適正な維持管理ができた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>施設・設備等の維持管理、修繕業務については、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</p> <p>札幌芸術の森において、施設維持管理業務中の車両による人身事故が発生しており、安全指導の徹底等により、利用者等の安全確保の徹底を図られた。</p>	A	B	C	D				
A	B	C	D								

▼ 損害賠償保険については、継続して、仕様に適合したものに加入した。

▼ 冬季の除雪については、除雪業者と連携を密に取り合い、来園者の利便性向上と安全確保に努めた。凍結時の砂まきや融雪剤の散布等を早期に行うとともに注意喚起の掲示を増やし、事故等の未然防止を図った。

▼ 拾得物の取扱いについては、所轄の警察署の助言を得て、拾得物取扱マニュアルを改訂。職員及びスタッフへの周知・徹底を図るとともに、ホームページに落とし物に関する特設ページを設けた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 利用者等の安全確保を第一に対応した。特に、冬期間は転倒防止のための砂まき、雪庇等の落雪事故防止の表示、カラーコーンの設置等を行った。

▼ 建物の構造上段差が多いため、特に高齢者・障がいのある人に対しては声掛けなどの配慮を行った。

▼ 庭園に設置している9点の野外彫刻のうち、ブロンズ彫刻8点の仮固定が完了(H29年度までに7点は仮固定済み)し、盗難・転倒事故の未然防止を図った。残る1点の野外彫刻は重量過大のコンクリート作品のため、11月の作品転倒後は平置きのまま安置している。

▼ 損害賠償保険は継続して、仕様に適合したものに加入した。

▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)

【札幌芸術の森】

▼ 施設維持管理にあたっては、来園者の安全・快適性を確保して適切に行った。適切な管理を行うため業務委託項目の見直しを行い、清掃や警備等、施設管理に関わる13業務、電気・空調設備等の建物保守関係の21業務の他、野外ステージや美術館に関わる管理業務等9業務、合計43業務について第三者委託により実施した。

利用者の安全性、快適性を維持するため、各業者と連携を密にしながら適正な維持管理ができた。

野外彫刻作品、及び大型の石膏原型作品等の防災・保全方法の研究を進め、今後、状況に応じた対策に努める必要がある。

仕様書に則した維持管理業務を行うことができた。

	<p>▼ 主な修繕について</p> <p>①センター・美術館・アトリエA外部改修工事 ②高圧受変電設備更新工事 ③陶工房地下埋設灯油タンク更新工事 ④センター前シンボル広場改修工事 ⑤駐車場等アスファルト補修</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 施設維持管理にあたっては、来館者の安全・快適性を確保して適切に行った。警備・庭園管理については第三者委託により実施した。</p> <p>▼ 主に下記の修繕を行った。</p> <p>①記念館床下収納庫蓋補修工事</p> <p>▽ 防災</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>▼ 下記のとおり、防災訓練等を実施した。 ・消防訓練 12/18 消火訓練 避難経路・誘導 防護の処置 ・通報訓練 3/19 消火訓練 避難誘導 救護処置</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 下記のとおり、防災訓練等を実施した。 ・消防訓練 (10/26)</p>	<p>状況に応じた適切な修繕を実施することができた。</p> <p>仕様書に則した維持管理業務を行うことができた。</p> <p>状況に応じた適切な修繕を実施することができた。</p> <p>職員と常駐業者の防災への意識を高めることができた。</p> <p>職員の防災への意識を高めることができた。</p>									
<p>(4)事業の計画・実施業務</p>	<p>▽ 音楽・舞台芸術事業</p> <p>文化芸術の発信事業として展開してきた「サッポロ・シティ・ジャズ(自主事業)」の枠組みを大きく変更し開催したほか、札幌文化芸術劇場hitaruのオープンに合わせパレエセミナー30周年記念公演、道内各地域のジュニアジャズやプロミュージシャン、ダンスの実演家たちとの協働により作品を創造した「フォレスト・オブ・ニューアーツ」などの事業を実施した。</p> <p>▼ サッポロ・シティ・ジャズ</p> <p>札幌の観光文化事業を担う独自のジャズイベントとして開催12回目を迎えた。</p> <p>昨年までの大通公園2丁目での「サッポロミュージックテントライブ」に代わり、秋にオープンした札幌市民交流プラザに拠点を移し新たに展開するため、夏期間と冬期間に分けて開催。夏期間は、札幌駅前通りでシティジャズの開幕を告げるジャズパレード、全国から約300組が出演し街中で演奏を繰り広げるパークジャズライブ、芸術の森でのノースジャムセッションを実施。あわせて、エスタビアガーデンやクロスホテル札幌とタイアップなど、企業、団体と提携し、様々なステージを展開。</p> <p>冬期間は、札幌文化芸術劇場hitaruを会場に、舞台上にステージと客席を設け、食事とライブを楽しめる「シアタージャズライブ」をはじめ、交流プラザ内のコートやスタジオを利用したコンサートやクリニックなどの教育普及事業や、札幌市図書館・情報館等を活用した情報発信など、さまざまな空間機能を備える交流プラザを活用した事業を展開した。</p> <p>海外プロモーションとして、インドネシア・ジャカルタで行われたジャワジャズフェスティバルに前年度のパークジャズライブで優勝したアーティストを派遣した。</p>	<p>夏と冬に会期を分けた結果、夏場の会期が減じたことにより来場者数は減じたものの、冬の市民交流プラザでのシティジャズの展開や、秋から冬にかけてのホテルとのタイアップ事業などの新規事業企画の立ち上げにより、夏期以外の観光資源の創出に貢献したほか、さまざまなスタイルのライブやプログラムを展開し、ジャズの普及や鑑賞者層の間口の拡大に努めた。</p> <p>また、海外からの観光客の獲得と海外のジャズフェスティバルでのサッポロ・シティ・ジャズの発信を行うことを目的として、インドネシアのジャワジャズフェスティバルにアーティストを派遣し、PRを行いジャズ文化の発信と他地域との交流に積極的に取り組むことができた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <p>両施設とも、多様な事業が計画・実施されている。サッポロ・シティ・ジャズでは、「ミュージックテントライブ」に代わる取組として、札幌文化芸術劇場を拠点とした新たな事業展開を行い、また、札幌ジュニアジャズスクールでは、札幌市と音楽文化都市交流協定を締結している浜松市との交流事業を行う等、札幌市の施策に合致した事業に取り組んでいることは高く評価できる。</p> <p>また、彫刻美術館では、展示会にあわせた多彩な関連事業の開催等により、来館者数が昨年度を上回ったほか、札幌文化芸術劇場hitaruのオペラ公演と連携した展示会を開催する等、新たな取組を行っている点は高く評価されている。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>両施設とも、多様な事業が計画・実施されている。サッポロ・シティ・ジャズでは、「ミュージックテントライブ」に代わる取組として、札幌文化芸術劇場を拠点とした新たな事業展開を行い、また、札幌ジュニアジャズスクールでは、札幌市と音楽文化都市交流協定を締結している浜松市との交流事業を行う等、札幌市の施策に合致した事業に取り組んでいることは高く評価できる。</p> <p>また、彫刻美術館では、展示会にあわせた多彩な関連事業の開催等により、来館者数が昨年度を上回ったほか、札幌文化芸術劇場hitaruのオペラ公演と連携した展示会を開催する等、新たな取組を行っている点は高く評価されている。</p>			
A	B	C	D								
<p>両施設とも、多様な事業が計画・実施されている。サッポロ・シティ・ジャズでは、「ミュージックテントライブ」に代わる取組として、札幌文化芸術劇場を拠点とした新たな事業展開を行い、また、札幌ジュニアジャズスクールでは、札幌市と音楽文化都市交流協定を締結している浜松市との交流事業を行う等、札幌市の施策に合致した事業に取り組んでいることは高く評価できる。</p> <p>また、彫刻美術館では、展示会にあわせた多彩な関連事業の開催等により、来館者数が昨年度を上回ったほか、札幌文化芸術劇場hitaruのオペラ公演と連携した展示会を開催する等、新たな取組を行っている点は高く評価されている。</p>											

▼札幌ジュニアジャズスクール

毎週末の定期練習のほか、札幌市内・道内各地での演奏活動、プロミュージシャンによるワークショップへの参加や共演を行った。

また、道内地域へのジュニアジャズの活動振興を目的としたジャズの種プロジェクトとして、道内4地域(広尾、ようてい、幕別、砂川)のジャズスクールと連携し、交流や共同発表会を実施したほか、ノルウェー・オスロ市のキッズジャズバンド「インプロバースン」の来日に合わせ演奏会や文化交流などの活動を行った。

19年目を迎えた札幌ジュニアジャズスクールは年間40本以上の演奏会を行ったほか、2月には大規模な成果発表公演を実施し、例年よりジャズの種プロジェクト各地との交流をさらに充実させることができた。また、ノルウェーのキッズジャズバンド「インプロバースン」との交流ではジャズスクール生の家庭にホームステイを行うなど、音楽交流に留まらない文化交流活動を行い、次世代の文化の担い手の育成に寄与することができた。

ゆでき、本市の要求水準を上回っている。

▼浜松地域交流事業

札幌市と音楽文化都市交流を行う静岡県浜松市で開催されたハママツ・ジャズ・ウィーク「スチューデントジャズフェスティバル」に、札幌ジュニアジャズスクールの中学生クラスが出演した。

併せて翌日には、同公演にも出演した浜松市立丸塚中学校吹奏楽部と交流活動を実施した。

全国から選抜された出場者の一つとして、札幌代表として演奏を行い、スクール生に貴重な経験を積ませることが出来たほか、地元中学校との交流を行うなど両市の友好の架け橋としての活動を行うことが出来た。

▼バレエセミナー2018

30回目の開催となったバレエセミナーは、パリ・オペラ座の元エトワールで現スペイン国立ダンスカンパニー芸術監督のジョゼ・マルティネス氏が主任講師となつて3年目を迎え、世界水準の講師たちによる指導を行った。今期は全日程を4日間ずつ半期で受講できる二期制を取り入れたほか、新たな試みとして成績優秀者に対しスペイン国立ダンスカンパニーへの短期研修への推薦枠を設けた。

半期での受講を可能としたり、前後期で一部講師やカリキュラムを入れ替えるなどの工夫を行い、通算で159人の受講生を集めることができ、優秀なバレエ人材の育成に寄与することが出来た。

▼北海道グループキャンプ

アメリカ・ボストンのバークリー音楽大学よりタイガー大越をはじめとする現役教授陣を招聘し、同校の教育メソッドを受講できるセミナーを、全国から受講者を募集し7日間にわたり開催。セミナー期間中を通し特に優秀な受講者には、来年度のバークリー音楽大学のサマープログラムに招待受講できるバークリー賞を授与した。

▼ビッグバンドプロジェクト

世界的ジャズピアニスト、デビッド・マシューズを音楽監督に迎え、地元ミュージシャンから編成される札幌ジャズアンビシャスを対象に年間を通じて定期練習を実施し、11月には2度目の定期演奏会を行った。

また、道内地域へのジュニアジャズの活動振興を目的としたジャズの種プロジェクトと連動し、広尾、ようてい、幕別、砂川の4地域でアウトリーチコンサートと、各ジャズスクールへのワークショップを行った。

▼バレエセミナー30周年記念公演

札幌文化芸術劇場hitaruを会場に、1988年の札幌芸術の森バレエセミナー開講から30周年を記念したスペシャルガラ公演を開催した。

公演監修には2016年よりバレエセミナー主任講師を務めるジョゼ・マルティネスを迎えた。

演目『スカラムーシュ』には、2018年8月開催のオーディションで選ばれた道内の小・中学生25名が出演した。2016年よりマルティネス氏とともにバレエセミナーで講師を務めるアニエス・ルテステュがデザインした衣装も華を添えた。

▼フォレストオブニューアーツ

第1部は道内5地域に展開する北海道ジャズの種プロジェクトに参加の札幌・ようてい・広尾・幕別・砂川のスクール生にデビッド・マシューズ率いる札幌ジャズアンビシャスのメンバーを加えた総勢150名の大オーケストラを編成し、1年間の練習の成果を披露した。

第2部は、札幌のバレエダンサーとヒップホップダンサーにより編成されたパフォーマーに、東京バレエ団のプリンシパルダンサーをゲストに迎え、マシューズがジャズアレンジを行った映画やミュージカルの楽曲を札幌ジャズアンビシャスが演奏し、ダンサーたちとの華やかなパフォーマンスを繰り広げた。

国内外から41名が参加したグループキャンプでは、バークリー賞に3名を選出した。

定期演奏会では、デビッド・マシューズ作曲の北海道をテーマにした曲を初披露したほか、ジュニアジャズスクールとの共演や地元のアナウンサーによる司会など、新たな工夫を加え、好評を得た。

道内4地域でのアウトリーチ活動では、コンサートに加えて各スクールへのワークショップを実施し、他地域との交流と育成に積極的に取り組むことができた。

当バレエセミナーの過去受講生であるプロ・アマチュアダンサーや、今後活躍が期待される地元の小・中学生が出演するなど、30周年事業として相応しい華やかなステージを行うことができた。

第一部には、芸術の森が立ち上げを推進し、事業提携する道内4つのジャズスクールの子どもたちと札幌のスクール生による大オーケストラを編成し、デビッド・マシューズや中川英二郎ら国内外トップミュージシャンによる指導体制のもと、約半年間にわたるリハーサルを道内各所で展開。これらを通じて、地域間の連携関係を一層深めることができたほか、プロミュージシャンと子どもたちの貴重な交流創出の場となった。

第二部では、札幌ジャズアンビシャスのメンバーと札幌のダンサー26名により、ジャズとパフォーマンスアーツを組み合わせた札幌発のパフォーマンスのシリーズ第3弾として開催。会場が満席となるなど多くの市民から注目を集め、高い関心を得ることができた。

▽ その他の文化芸術事業

▼ 「芸森アートマーケット」

市民の作品発表・展示の場を提供する事業として、昨年に引き続き実施し、芸森の森で5回開催したほか、サッポロ・シティ・ジャズと連携し札幌市民交流プラザでも12月に特別開催した。

市民アーティストが様々なジャンルの手作りアート作品を持ち寄り、発表・展示・販売を行った。

芸森の森での開催は8回予定のうち雨天や地震等により5回の開催に留まったが、新しい試みとして市民交流プラザを活用するなど、市民アーティストに発表・交流の場を設けることができた。

▽ 各種団体との提携による文化芸術の振興

市内芸術団体等と共催し、野外ステージを活用したクラブ音楽イベント「SUMMER STAGE SAPPORO BIG FUN GARDEN PARTY」や、アートホール・野外美術館を利用した冬の音楽フェス「OTO TO TABI」などの事業を行った。

意欲的な試みを実施したい他団体と提携し、芸森の森の施設や事業ノウハウを提供することで新しい音楽文化の発信を行うことが出来た。

▽ 美術館事業

▼ 展覧会事業

「リサ・ラーソン展 ～スウェーデンのすてきな芸術一家～」 「陶・創造者たち-北の大地と共に-」 「ブリューゲル展 画家一族150年の系譜」 「札幌美術展 五十嵐威暢の世界(札幌市補助金事業)」の計4本の特別企画展を開催した。

また、B展示室を会場とした「札幌芸術の森美術館コレクション選 新収蔵記念 林縁から」の小企画展により、当館収蔵作品(札幌市所蔵)の美術作品を展示、公開した。

さらに、屋外展開型の企画展として中庭インスタレーション「五十嵐威暢の世界 無意識の庭」を美術館中庭で開催した。

[札幌芸術の森美術館]
展覧会企画数 : 6本
総入館者数 : 91,558人

今年度は、陶芸、絵画、デザイン、彫刻といった多様なジャンルの展示を開催し、西洋から、北海道に根ざして活動する作家まで幅広く紹介した。

「リサ・ラーソン展」では40代女性が圧倒的に多く、全体では女性が73%を占めた。また、ラーソン一家全体の創作活動への取り組みも見せたことでよい評価が得られ、多くの観覧者の満足感を得られた。

「陶・創造者たち」では北海道で現在活躍する陶芸作家と、オレゴン陶芸家協会の選抜メンバー、73作家110点の作品を一挙に展覧することができる場を提供し、60歳代～70歳代が年齢層の多数を占めた。

「ブリューゲル展」は前近代の巨匠による美術作品であること、出品作品のほとんどがプライベート・コレクションであることなどから、北海道では稀に見る貴重な展覧会となった。

そのほか、芸術の森美術館収蔵品を紹介するコレクション選では平成29年度に収蔵した柿崎熙《林縁から-転生》を出品。当館のコレクションについて改めて周知する場とした。中庭インスタレーションは五十嵐にとって初の屋外インスタレーションとなり、風や陽光といった自然環境によって作品の見え方や配置が変わるという特徴を持つ。五十嵐の新境地を垣間見せるものとなった。

▼野外美術館

・来館者への作品鑑賞サポートとして、野外美術館作品解説ボランティア32名により、作品解説を行った。一般来館者への作品解説を行った。

・野外美術館の作品鑑賞の手引きとして、彫刻鑑賞ノートと、子ども向けには、シールを貼りながら作品を楽しく学ぶことができるシールマップを制作販売した。

・野外美術館の利用促進を目的に、引き続き犬を連れて入館できる「わん・わん・よい日」や「Wan Wanフェスティバル」を設け、センター前広場では、愛犬家に向けたワークショップやグッズの販売を行った。

▼教育普及に関する事業

・佐藤忠良記念子どもアトリエでは、彫刻家佐藤忠良作品を中心とした当館所蔵品を展示するとともに、多彩なワークショップを企画・実施した。

[佐藤忠良子どもアトリエ]
ワークショップ企画数:8本
総参加者数:2,041人
総入館者数:18,690人

作品解説ボランティアは、ボランティア研修12回を受け研鑽を積み、定時解説、臨時解説など、来館者の希望に応じた時間や内容で解説を行い、道内外からの来館者からは、作品をより理解することができたと好評を得た。ボランティア活動としては、他美術館への視察や、自主研修を行うなど積極的な取り組みにより、より質の高い解説を今後も目指していく。

佐藤忠良記念子どもアトリエでは、ほかではなかなか体験することができないワークショップを企画・開催した。油絵ワークショップは昨年度に引き続き人気が高かった。また、型どりをしてリアルな手の石こう像を制作するなど、本格的な作品制作に近い形で制作を体験できるワークショップを企画・実施した。保護者からも、子どもたちが積極的に楽しんで参加でき、指導もやさしく丁寧であると、大変好評であった。今後も、親子で美術に興味を持ってもらえる企画を考えていく。

▽ 工芸事業

▼ 工芸館展覧会事業

「0さいからのげいじゅつのもり 花ふるカラー」「陶芸～新世代の技とかたち～」 「北と手仕事 このみち」 「35år トレッティフェム・オール ー日瑞ガラス・木作品展ー」 「アートオブクラフトfrom「職人力」展」 「0さいからのげいじゅつのもりドライブインシアター」の計7本の企画展に加え、「芸術の森地区文化祭」を実施した。

[札幌芸術の森工芸館]

展覧会企画数 : 8本

総入館者数 : 66,242人

▼ 第18期工芸館常設展示事業

クラフト作家に対する展示機会の提供、使い手側には良質の作品と出会い購入できる場の提供により、クラフト文化の振興と流通拡大を図るため、工芸館に常設展示スペースを設置している。今年度は、出品者の中から3人の陶芸家をピックアップした特別展示企画を2回実施、作品に作家からのメッセージなどを添えて、来館者が作り手に対してより親しみを持てる展示となるよう工夫した。今年度の出品家は道内48名、道外12作家の計60名。

会期:平成30年4月1日(土)～平成30年11月25日

(日)

※今年度は園内の大規模工事により平成30年12月から平成31年3月の期間休業。

会場:工芸館常設展示スペース「ベストポケット」

幹旋販売額:3,004,756円(前年度実績:3,723,334円)

若手・中堅の工芸作家9名による「北と手仕事」展では、制作工程のほか、材料や道具、産地についても取り上げ、どのような道の手を経て、作品が出来上がっているかを紹介したことが好評だった。また展示したことによって美術関係者とのつながりも生まれ、新たな活躍の場をひろげた作家もいた。

「0さいからのげいじゅつのもり」では、引き続き、冬期間に広いスペースで、親子で楽しむことができるアート体験の場として実施。2回以上参加しているリピーター、また南区、豊平区からの利用者が多く、地域住民の冬期間子どもと遊べる施設として利用されている。

通常の展示に加え、期間限定の企画展示として地元札幌の陶芸作家にスポットを当て、「長く愛せる器もの」「結像する実りの白磁」などテーマごとに紹介した。

また夏場はガラス作品の展示に力を入れ、会場の中心に据えるなど、季節に合わせた見せ方も工夫した。

▼ 工芸・版画講習会事業

クラフト工房と各工房において、工芸と版画の裾野の拡大と制作技術の向上を目的とした講習会を通年で開催。陶芸、染色、手織、木工、七宝、ガラス、金工、版画の各分野で、個人向けの「工芸・版画講習会」、団体向けの「グループ講習会」、また、予約なしで気軽に作品制作が楽しめる「ふらっとクラフト体験」など、制作体験から技術習得、また、作家によるワークショップなど、初心者から上級者向けまでの幅広いプログラムを実施した。

会期：平成30年4月～平成31年3月

会場：クラフト工房、木工房、染工房、織工房、版画工房

講習会総実施回数(ふらっと体験を除く)：537回(前年度実績：556回)

講習会総受講者数(缶バッジ体験を除く)：8,074人(前年度実績：7,482人)

単に「つくる」という体験で終わらずに、作ったものを暮らしの中で「つかう」ことに重きを置いた内容で講習会を実施し好評を得た。制作技術の向上を目的とする市民向けには「自由制作教室」を開催したり、外部から講師を招聘して講習会を実施することでリピーターの獲得に繋げることができた。

夏休みや冬休みの時期には小学生の自由研究につながるメニューで講習会を実施する工夫をした。

また、冬期間には市内の児童会館を対象とした低価格帯のグループ講習会「森のクラフト教室」を実施し、多くの子どもたちで賑わいを見せた。

普及事業の一環として実施した工芸・版画分野のアウトリーチプログラムには、普段、芸術の森に足を運ぶ機会が少ない市民にも参加してもらうなど芸術文化事業の紹介と制作体験の機会を創出することができた。

▼ アウトリーチ事業

● 市内のショッピングセンターや札幌地下歩行空間、また当財団の本郷新記念札幌彫刻美術館や札幌市民ギャラリーに職員が出向いて工芸・版画講習会の体験イベントを実施した。

会期：平成30年11月～平成31年2月

実施回数：4回(前年度実績：5回)

参加人数：680人(昨年度実績：263人)

▼ ワークショップ事業

● 札幌市内の公共施設や芸術文化団体と共催で工芸ワークショップを実施した。

会期：平成30年7月～平成31年1月

実施回数：3回(前年度実績：2回)

参加人数：100人(前年度実績：41人)

札幌市内の芸術文化団体と共催し、通年の講習会メニューに捉われないプログラムを提供した。特に「縄文太鼓でアートキャンプ」では、陶芸制作体験と制作した楽器演奏を併せたワークショップを行い他分野との融合を図り好評を得た。

▽ 自主事業(札幌市補助事業)

▼札幌市補助事業

●札幌美術展 五十嵐威暢の世界

日本を代表するデザイナーの一人である五十嵐威暢の展覧会。本展では、デザイナーとしての原点である1973年の個展から、彫刻家としての現在までの仕事の変貌を示すポスター、プロダクト、彫刻など、163点を一堂に集め、「アートは日常の暮らしと風景によりそうことによって、人々の心をさらに豊かなものにする」と考え制作を続けてきた五十嵐威暢による、デザインとアートが融合する無二の世界を紹介した。

(入場者数:7,038人)

五十嵐威暢という一人のアーティストの歩みをたどり、その作品の魅力や思想を掘り下げながらも、日常の中に存在するデザインやパブリックアートの制作プロセスやそこに込めた思いなどを明らかにする展覧会となった。お客様からも「札幌市内に点在するアート作品を、普段何気なく見ていたが、展覧会を機に見方が変わった」とのお声をいただいております。人々に新たな観点や気づきを提供することができた。

また本展では、従来の展覧会では一般的に割合が少ないとされる、40歳代から50歳代の男性の来館が多数の割合を占めた。本展は、これまで美術館を習慣的に利用して来なかった層に、新たな選択肢として展覧会鑑賞という文化的活動を提案することができた。

●子どもの美術体験事業「ハロー！ミュージアム」市内の小学校5年生児童を対象に、鑑賞活動及び造形活動の楽しさを体験するプログラムを実施。「芸術の森美術館コース」「野外美術館コース」「子どもアトリエコース」「彫刻美術館コース」の4つのコースを設定した。昨年度より事前学習を担当の先生が行う方法に変更し、実施前にコース別説明会を開き、各コースの会場において、活動内容等の説明及び事前学習に関する模擬授業の実施と教材(事前学習キット)の配布を行った。また、鑑賞学習をサポートする協力員(教育サービスボランティア)の養成講座を実施し、今年度は40名が活動した。野外解説ボランティアとも連携しながら、児童の来館時の対応にあたった。

コース別参加校数等

・芸術の森美術館コース:64校

・野外美術館コース:66校

・子どもアトリエコース:48校

・彫刻美術館コース:22校

総参加校数:200校

総参加児童数:14,491人

今年度のハロー！ミュージアムでは、昨年に引き続き市立小学校に加え、私立三育小、視覚支援学校、そして山の手養護学校が参加、札幌聾学校の初参加も合わせ、200校が参加した。地震による中止が4校あった。

担当教員がどのように事前学習をすすめたらよいかのポイントなどをレクチャーする事前説明会をコース別に開催、「事前学習キット」を配付した。教員が参加しやすくするため、夏休み期間中にも実施した。

「対話による鑑賞」や、頭像作りを通じて、物の見方、感じ方を意識し、言葉で表現する大切さ、難しさとともに、さまざまな捉え方があり、それを認め合うといった多様性の尊重も重点とした。

【札幌彫刻美術館】

▽ 展覧会事業

- ▼ 総入館者数16,959人
(本館10,359人、記念館6,600人)

【本館】

下記の展覧会を開催した。

- 企画展(入館者数)
 - ・「第2回本郷新記念札幌彫刻賞受賞記念 加藤宏子展」(1,452人)
 - ・子ども育成事業「わくわく★アートスクール2018」作品展(991人)
 - ・「市民交流プラザ開館記念連携事業 オペラの衣裳と舞台美術 煌く「アイダ」の世界」(3,494人)
 - ・「本田明二展 ひとノミ、ひとノミ、私は木を削る。」(1,258人)
 - ・「さっぽろ雪像彫刻展2019」(532人)
- コレクション展(入館者数)
 - ・「ふれる彫刻・手でみるアート」(89人)
 - ・「彫刻家・本郷新の見た「異国」」(720人)

【記念館】

本郷新の代表作や野外彫刻の石膏原型、制作道具などの常設展示を行った。H29年度から2階の一角に本郷新や彫刻芸術に関する図書を自由に閲覧できるコーナーを新たに設けた。

【記念館】

- ・「本郷新の人と芸術」(63人)
- ・「本郷新、その生涯と作品」(6,102人)

▽ 本郷新の業績を顕彰することを目的とした事業

- ▼ 本郷新記念札幌彫刻賞(第2回)
「第2回本郷新記念札幌彫刻賞受賞記念 加藤宏子展」

「加藤宏子展」では、和紙の原料であるコウゾを素材とした立体表現によって彫刻の新たな可能性を提示した。「わくわく★アートスクール作品展」では、近隣小学校2校の子どもたちがアーティストとともに製作した作品を当館で展示した。「オペラの衣裳と舞台美術展」では、文化芸術劇場のこけら落としの公演「アイダ」にあわせてオペラの魅力を紹介した。「本田明二展」では、本郷新との親交の深かった彫刻家を取りあげ、作品に込められた逞しい生命の息吹と、その制作に傾けた熱意を紹介した。「さっぽろ雪像彫刻」展では、美術家や学生等による雪像彫刻11基のほかに滑り台を設け、家族連れで賑った。

本郷新が手がけた野外彫刻の石膏原型やブロンズ・木彫などの代表作、制作道具等を常設展示するほか、本郷新や彫刻一般についての図書や、本郷新の蔵書などを紹介する図書・情報コーナーを設け、本郷新や彫刻芸術についての情報を発信することに努めた。

第2回本郷新記念札幌彫刻賞を受賞した札幌在住の彫刻家、加藤宏子の近作および新作からなる受賞記念展覧会を開催した。新たな彫刻の方向性を感じさせる斬新な技法を用いた作品群に、来館者からは高い関心が寄せられた。

▽ 彫刻を中心とした美術に関する講座等

▼ 普及事業

●子どもの美術体験事業「ハロー！ミュージアム」(彫刻美術館コース)【自主事業(札幌市補助金事業)】
参加校数:22校 参加児童数:1,264人

●子ども育成事業「わくわく★アートスクール」作品制作

参加校:大倉山小学校、三角山小学校

参加児童数:のべ325人

●彫美 連続講座2018「彫刻探訪のススメ～150年物語」

参加者数:104人

●おとなのためのワークショップ「本格鑄造体験 小さな彫刻オブジェづくり」

参加者数:8人

●カルチャーナイト2018

参加者数:48人

●夏休み子ども造形教室

実施回数:2回 参加者数:35人

●冬休み子ども造形教室

参加者数:16人

▼ 学校協力

●小学校教育への協力(児童数:延べ699人)

三角山小学校3年生延べ545人(15回)をはじめ、総合学習や校外学習などに積極的に協力した。

●ボランティアの受け入れ

札幌聖心女子学院中等部1年生10人

●職場体験の受け入れ

宮の森中学校2年生2人、啓明中学校2年生2人、向陵中学校2年生2人

▽ その他彫刻美術館の設置目的を達成するための事業

▼ 促進事業

●美術館めぐり

実施回数:4回 参加者数84人

●サンクス・デー

実施回数:2回 入館者数:338人

●ミュージアム・コンサート

実施回数:3回(他の事業とあわせて開催)

参加者数:296人

「ハロー！ミュージアム」の彫刻美術館コースでは、22校が参加し、内容について高い評価を得た。

子ども造形教室は夏休み、冬休みの自由研究作品を作る目的の参加者が目立ち、講師である彫刻家や造形作家から直に作品作りの楽しさと技術を教わる貴重な機会として定着している。

連続講座は3年目を迎え、彫刻の魅力を広めることを目的により深く彫刻を知るための多様な講座を実施しており、彫刻ファン層の毎年の参加がある。

三角山小学校3年生への年間を通じた授業協力や、中学生の職場体験の受け入れを継続し、来館者やボランティアらとの交流の機会をもつなど、時宜に応じて充実した取り組みができた。

美術館めぐりでは芸術の森管理のバスを利用することで交通の利便性を高め、財団の施設を中心に訪問する、市民の参加しやすい芸術鑑賞ツアーを行った。カルチャーナイトでは市内で活躍する演奏家に依頼したコンサートを行うとともに、音楽というテーマから本郷新の作品を紹介するギャラリートークを開催した。

	<p>▼ 貸館事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いけばな伝統文化宮の森教室発表会 43人 ・POST 3.11 in Sapporo～沈みゆく記憶の淵で～ 298人 <p>▼ ボランティア活動の受入</p> <p>ハロー！ミュージアムで児童への鑑賞指導を行うボランティア(協力員)を受け入れ、実際の活動と事前の研修を行った。また、H29年度より記念館に設けた図書・資料コーナーでの案内及び図書の整理をボランティアとともにやっている。</p> <p>▼ 連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ●彫刻セミナー(第5回)49人 札幌彫刻美術館友の会と共催し、講演会やセミナーを実施。 ●財団他施設との連携 <p>市民交流プラザ内に誕生の札幌文化芸術劇場hitaruのこけら落とし公演・オペラ「アイダ」にちなんだ展覧会の開催、札幌芸術の森美術館所蔵作品の出品、芸術の森工芸専門員による造形教室を行ったほか、美術館めぐりで芸術の森を訪問した。</p>	<p>財団の他施設との連携を図り、財団の総合力を活かす事業を行っている。特に今年度は、新たにオープンした市民交流プラザにおける事業の目玉の一つであるオペラと、当館の特色として打ち出した立体造形の紹介という役割を結びつけ、オペラの造形美に着目した展覧会を開催し、両施設の相互の利用促進を図った。このほか、他団体とも積極的に連携し、幅広い事業を展開することができた。</p>
--	--	---

(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等	A B C D			
		札幌芸術の森では、総入園者数は約35.2万人と、総入園者数が前年度実績から大きな落ち込みを見ている。札幌芸術の森については、総入園者数、屋内美術館入館者数、野外ステージの利用率が要求水準を下回っており、その理由を分析し、利用状況の改善を図られたい。 一方、彫刻美術館では、主催展覧会にあわせて多彩な関連事業を開催する等、集客に向けた工夫を行っており、前年度を上回る来館者となった点は高く評価できる。			
	【札幌芸術の森】				
	・施設の利用状況				
		H29実績	H30計画	H30実績	
アートホールアリーナ	件数(件)	231	220	223	
	人数(人)	19,100	19,600	18,129	
	稼働率(%)	64.9	63.0	66.4	
アートホール練習室	件数(件)	2,090	2,040	1,936	
	人数(人)	23,805	22,500	19,226	
	稼働率(%)	58.6	57.0	57.3	
野外ステージ	件数(件)	37	37	36	
	人数(人)	18,040	21,300	20,426	
	稼働率(%)	19.6	19.0	20.2	
各種研修室	件数(件)	5,025	4,990	4,620	
	人数(人)	7,702	7,320	6,641	
	稼働率(%)	69.2	87.0	88.7	
各種窯	件数(件)	341	380	269	
	人数(人)	564	580	640	
	稼働率(%)	30.8	32.0	30.1	
各種アトリエ・ロッジ	件数(件)	351	420	309	
	人数(人)	2,821	2,900	2,687	
	稼働率(%)	25.7	31.0	26.8	
駐車場	件数(件)	49,845	52,000	49,700	
	・入場者数 (人)				
		H29実績	H30計画	H30実績	
総入園者数		433,044	450,000	351,955	
	芸術の森美術館	93,926	136,000	91,558	
	芸術の森野外美術館	89,552	60,000	55,938	
	▽ 不承認0件、取消し136件、減免861件、還付71件				
	▽ 利用促進の取組				
	<p>▼ 芸術の森や文化芸術に気軽に親しんでもらうこと、来園者増を目的とし、園内全体でイベントを年6回開催。野外美術館の無料開放のほか、ものづくり講習会やスタンプラリー等を実施。今年初のイベントとして野外美術館の魅了促進のために取り組んだ謎解きイベントや紅葉と仮装を取り上げた「芸森ハロウィン」も開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸森スプリングフェスタ 8,022人 ・芸森パースデー 4,023人 ・隠された庭からの脱出 5,745人 ・芸森ハロウィン 2,616人 ・秋の芸森あったかサンキュー・デー 5,754人 ・雪あかりの祭典 1,944人 	<p>四季にあわせて実施した年5回のイベントはいずれも好評で、特に初の試みである謎解きイベント「隠された庭からの脱出」では、野外美術館を舞台に彫刻を巡り謎を解くなど、野外美術館の魅力発信に努め、子どもから大人まで多くのお客様に好評を得た。</p>			

▼ 日本野鳥の会札幌支部の協力によるバードウォッチングなど、各団体との連携事業に取り組んだ。また、札幌と小樽の芸術文化及び観光の振興を図るため、札幌市芸術文化財団、株式会社ニトリホールディングス、一般社団法人札幌観光協会、一般社団法人小樽観光協会の4者で「札幌小樽芸術文化・観光に関する連携協定」を締結し、連携事業として小樽雪あかりの路期間中にジャズライブを実施した。

▼ 開園以来実施している冬期間の野外美術館での「かんじきウォーク」では、初の試みとして彫刻をめぐるポイントラリーを実施した。

▼ 南区シーニックバイウエイ協議会に参加し、スタンプラリーの実施や無料カレンダーの制作、配布などを通じて、南区エリアの観光名所全体でのアピールに努めた。

▼ 連携協定を締結している芸術の森地区連合会との事業では、毎年恒例となった「雪あかりの祭典」をはじめ、「芸術の森地区文化祭」や「芸術の森地区音楽祭」など、芸術の森の環境を生かし、地域の活性化に繋がる事業を継続実施した。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▽ 利用件数等

		H29実績	H30計画	H30実績
本館 展示室	展示会件数	7	6	6
	開館日数	284	250	250
本館 研修室	利用件数	6	3	3
	利用日数	49	6	6
本館 屋外	利用件数	2	1	1
	利用日数	4	3	3
記念館	展示会件数	2	2	2
	開館日数	294	297	297
貸館	利用件数	2	2	2
	貸館日数	10	12	12
本館入館者数		9,993	9,000	10,359

▽ 不承認 0件、取消し 0件、減免 0件、還付 0件

▽ 利用促進の取組

▼ 年2回「サンクスデー」として無料開館し、集客を図った。親子連れで楽しめる企画やミュージアムコンサートなどを実施し、幅広い層の来館を促す工夫をした。

実施回数：2回 参加者数：333人

「オペラの衣裳と舞台美術展」では、彫刻美術館、美術館自体に初めて足を運んだという声が多く聴かれた。当館の認知度を上げるのみならず、美術分野へと誘えたことは意義があった。

主催事業での利用がない際には、貸館の誘致を行った。新規の利用が増えるよう、情報発信を行なっていきたい。

入館者は前年度を上回り、本館は28年ぶりに1万人を回復して10,359人、記念館6,600人、合計16,959人となった。

サンクスデーやワークショップなどのイベントについて地域への広報を積極的に行い、参加を呼びかけた。

			<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td> <p>両施設とも、ホームページを充実を図りつつ、SNSの活用によりイベント情報や施設の魅力を発信している。札幌芸術の森については、HPアクセス数が前年度比で約9万件減少している。札幌芸術の森については、小学生対象の情報紙の発行などを行い、また、札幌彫刻美術館においては、近隣へのチラシ配布等により地域住民の参加を促している。以上の工夫をこらした広報活動を行っていることは高く評価でき、本市の要求水準を上回っている。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D				<p>両施設とも、ホームページを充実を図りつつ、SNSの活用によりイベント情報や施設の魅力を発信している。札幌芸術の森については、HPアクセス数が前年度比で約9万件減少している。札幌芸術の森については、小学生対象の情報紙の発行などを行い、また、札幌彫刻美術館においては、近隣へのチラシ配布等により地域住民の参加を促している。以上の工夫をこらした広報活動を行っていることは高く評価でき、本市の要求水準を上回っている。</p>
A	B	C	D								
			<p>両施設とも、ホームページを充実を図りつつ、SNSの活用によりイベント情報や施設の魅力を発信している。札幌芸術の森については、HPアクセス数が前年度比で約9万件減少している。札幌芸術の森については、小学生対象の情報紙の発行などを行い、また、札幌彫刻美術館においては、近隣へのチラシ配布等により地域住民の参加を促している。以上の工夫をこらした広報活動を行っていることは高く評価でき、本市の要求水準を上回っている。</p>								
(6)付随業務	<p>▽ 広報業務</p> <p>【札幌芸術の森】</p> <p>▼ 広報の充実 課、係間を越えた職員で広報会議を定期的に行い、情報の共有に努めるとともに、積極的な情報発信を図った。</p> <p>▼ ホームページによる情報発信の充実 平成28年11月に全面リニューアルを実施したホームページの内容をさらに充実させた。また、季節にあわせてトップページのメイン写真を変更し、芸術の森の自然を含む魅力を伝えた。 シティ・ジャズやバレエセミナー等の情報量が多い事業は、引き続き個別のホームページを設け、ターゲットを絞った情報発信を行った。 ・ホームページアクセス数 H30 : 1,407,488件 (参考)H29 : 1,501,704件</p> <p>▼ その他SNSによる情報発信の充実 新たに芸術の森公式Twitterアカウントを開設し、FacebookやInstagramと併せてリアルタイムの情報発信を行った。各施設のアカウントを合わせ、Facebookページ「いいね！」数は20,579人、Instagramフォロワー数は1,221人、Twitterフォロワー数は16,786人となり、情報拡散に努めた。</p> <p>▼ ニュースリリースによるマスコミへの情報提供 毎週、市政記者室をはじめマスコミ、運営協議会委員、事業関係者など約170箇所に、芸術の森の最新情報をリリースする「今週の芸森。」をメールマガジン形式で配信するとともにホームページに掲載し、スピーディな情報発信に努めた。</p> <p>▼ 小学生対象の情報紙「もりくる」の発行 毎年2回、札幌市内全小学生を対象とした情報紙「もりくる」を発行し、長期休暇期間に実施する子ども向けワークショップ等の体験型講座やイベント情報を掲載した。</p> <p>▼ ウェブアクセシビリティ取組確認を実施し、2019年3月29日にホームページに公開した。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 通常のホームページ運営に加え、フェイスブックやツイッターでのこまやかな情報発信に努めた。また、宮の森地区連合町内会、近隣小学校へのチラシ配布を通じて地域住民への広報に積極的に取り組んだ。 ホームページアクセス数: 1,485件 (参考)H29: 1,450件 フェイスブック「いいね！」数: 747件 (参考)H29: 691件 ツイッターフォロワー数: 3,868件 (参考)H29: 3,713件 芸術の森の連携により、広報ツール(ニュースリリースや情報紙ルアプラス)の共有もを行っている。</p> <p>▼ ウェブアクセシビリティ取組確認を実施し、2018年8月31日にホームページに公開した。</p> <p>▽ 引継ぎ業務 (前回から継続指定のため、引継業務なし)</p>	<p>ホームページの全面リニューアルが市民にも知れ渡り、「わかりやすい」「見やすい」というご意見をいただくことが増えた。また、展覧会・イベント欄を担当者がそれぞれ更新することで、リアルタイムで詳細な情報を発信することができた。</p> <p>このほか、SNS更新にも力を入れ、より多くの閲覧者の心に届くような投稿を心がけた。また、更新頻度も高めることで、情報拡散に努めた。</p> <p>もりくるの発行については、イベント情報を充実させ、情報ツールとして充実を図り、集客につなげることができた。</p> <p>取組内容に対する評価については、より良い評価が得られるよう、目標達成に向けて努力したい。</p> <p>SNSの活用により若年層への情報提供ができたほか、地域住民への広報に引き続き注力し、地域での認知度を高めることができた。また、プレスへの直接的な働きかけを地道に行い、事業や取組を記事として取り上げてもらうことができた。</p>									

2 自主事業その他

▽ 自主事業

【札幌芸術の森】

▼「政策推進連絡会」の開催

- 開催日
平成30年8月28日(火)9時30分～12時30分
- 意見交換等の項目
 - 【芸術の森の事業全体について】
 - ・指定管理評価シート、平成29年度決算
 - ・事業構成の割合
 - ・工房意見交換等
 - ・次年度の展覧会等の企画
 - 【サッポロ・シティ・ジャズについて】
 - ・事業スキームの在り方
 - ・2018年度冬のスケジュール
 - ・2019年度ジュニアジャズスクールの国際交流
 - ・来年度以降の開催手法

▼ レストラン事業

センター2階の野菜を中心としたビュッフェレストラン「ごちそうキッチン 畑のはる」では、北海道産、とりわけ札幌近郊の食材を取り入れたメニューを通年で提供。平成30年度は園内のハロウィンイベントやブリューゲル展などで特別メニューを提供したり、好評を得た謎解きイベント内で豆乳ソフトクリームを紹介するなど、冬季の休業を見越した春季から秋季の利用者増加に努めた。また、美術館ではカフェ「ラ・フォルア」を営業した。(利用者：12,351人)

▼ 売店事業

直営で運営しているミュージアムショップでは、展覧会の大規模な特設ショップとは別に、展覧会関連グッズを独自に取り扱った。また、園内各所に22台の自動販売機を設置し、広い施設内の複数箇所で水分補給ができるようにするとともに熱中症の注意喚起を行うなど、利用者のニーズへの対応に努めた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼「政策推進連絡会」の開催

- 開催日
平成30年6月8日(金)11時20分～12時30分
- 意見交換等の項目
 - ・ヒアリングをさせていただきます。
 - ・市内の野外彫刻に対する考え方について
 - ・修繕要望項目について

▼ 自動販売機を設置し、来場者の利便性向上に努めた。

▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等

【札幌芸術の森】

▼ 各種保守点検、修繕業務の再委託について、その大部分を市内の企業に発注した。また、高齢者就労支援業者(シルバー人材センター)に受付業務の一部を委託したほか札幌芸術の森美術館で開催される展覧会やイベントの広報印刷物の封入作業を、昨年引き続き近隣の福祉施設に発注した。

道産を中心とした食材にこだわったレストランのメニューは、幅広い世代に好評である。加えて、平成30年度は園内イベントや展覧会との相互的な魅力アップに努め、冬期間休業であったにもかかわらず、平成29年度との利用者数の差は1,491名の減にとどめることができた。

ミュージアムショップでは、地元作家のオリジナル作品など、ここでしか取り扱いのない作品の販売により、顧客を少しずつ増やしている。中にはSNSで周知され、毎回販売と同時に完売する作家作品なども取り扱い、反響を得ている。今後も小規模ながら、楽しくセンスにあふれ来館者を飽きさせない工夫を行う。

A B C D

ビュッフェレストランにおける札幌近郊の食材や展覧会特別メニューの提供、ミュージアムショップにおける地元作家のオリジナル作品販売など、北海道・札幌の魅力をもっとPRする取組が見られた。

その他、業務委託時に地元企業や福祉施設の活用を意識的に行っており、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。

各種保守点検、修繕業務の再委託、彫刻美術館での消耗品の購入について、その大部分を市内の企業に発注するよう努めたほか、一部の業務を福祉施設に発注するよう努めた。

<p>▼「サッポロ・シティ・ジャズ事業」では、設営や舞台技術、警備、飲食提供等の業務において、市内を中心に事業展開している企業を採用したほか、ライブができるロケーションを保有する様々な企業・団体と連携し、各会場の特性に合わせたライブイベントを数多く制作・実施した。</p> <p>また、福祉施策としては、車椅子の方や障がいをお持ちの方でも気軽に来場できるよう、通路幅を広く設定した「ユニバーサルジャズライブ」の実施や、客席の一部を栈敷にしプレイスペースとした「デイトム親子ジャズ」の実施など、多くの市民に来場いただけるよう、工夫した企画を行った。</p> <p>▼「札幌ジュニアジャズスクール事業」では、病院や福祉施設における演奏会を積極的に行った。</p> <p>【本郷新記念札幌彫刻美術館】</p> <p>▼ 業務委託、消耗品等の購入は市内の企業を活用した。</p> <p>▼ 一部清掃、クリーニング業務を、市内の福祉施設に発注した。</p>	<p>市内企業の活用については、業務発注だけでなく、企業・団体と連携したイベント制作を行い、様々な形で地域企業を活かすことができた。</p> <p>福祉施策への配慮も、複数の事業において積極的な取組を行うことができた。</p>
---	---

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果

【札幌芸術の森】

実施方法	平成30年4月～平成31年3月 施設・事業毎のアンケート用紙を作成し配布。
結果概要	回答:利用者アンケート 294件 事業アンケート 7,889件 (音楽・舞台芸術事業2,768件、美術館事業2,303件、工芸・工房事業1,025件、利用促進1,793件) 施設に対する総合的な満足度は93.2%('とても良い'、'良い'、'普通'の合計)と、前年度より満足度が低下している。一方で、職員の接遇に対する満足度は88.2%('とても良い'、'良い'、'普通'の合計)と、前年度より高い満足度となった 施設表示の工夫や施設利用に関する意見や要望については、可能なものから都度迅速に対応するように努力した。
利用者からの意見・要望とその対応	利用者からの意見や要望に関しては、職員間で情報を共有し、その都度迅速に対応した。 意見・要望については別添のとおり

【札幌彫刻美術館】

実施方法	無記名の記入方式(通年)
結果概要	回答1,074件 来館者の施設に対する総合的な満足度は94.1%('とても良い'、'良い'、'普通'の合計)、職員の接遇についての満足度は97.9%('とても良い'、'良い'、'普通'の合計)と、総じて高い評価を得ることができた。
利用者からの意見・要望とその対応	【要望】(記念館)もっとたくさんの作品を展示してほしい。 【対応】限られたスペースではあるが、観覧者の動線を確認しつつ展示作品数を増やした。また、不定期ではあるが作品を入れ替え、リピーターにも対応した。 【要望】きれいだが経年劣化が気になる。 【対応】引き続き館内の清掃に取り組むとともに、優先順位をつけながら適宜補修を行い、快適な環境の維持に努める。

アンケート調査の結果、施設に対する満足度は、前年度に比べて低下したが、職員の接遇に対する満足度は良い評価をいただいた。札幌市の要求水準である、80%は越えている。今後は、来園者・利用者への接客対応の改善と、来園者・利用者の声を取り入れることができるよう努める。

職員の接遇については前年度に引き続き高い評価を得ることができた。展示についてもおおむね高い評価を得ることができた。今後もより充実した内容にできるよう努める。

A	B	C	D

両施設とも、「総合的な満足度」及び「職員の接遇についての満足度」は、本市の要求水準である80%を超えている。

4 収支状況

▽ 収支 (千円)			
項目	H30年度計画	H30年度決算	差(決算-計画)
収入	841,089	850,365	9,276
指定管理業務収入	781,117	787,259	6,142
指定管理費	655,735	656,593	858
利用料金	42,320	44,049	1,729
その他	83,062	86,617	3,555
自主事業収入	59,972	63,106	3,134
支出	872,089	909,059	36,970
指定管理業務支出	770,624	803,706	33,082
自主事業支出	101,465	105,353	3,888
収入-支出	▲ 31,000	▲ 58,694	▲ 27,694
利益還元			0
法人税等			0
純利益	▲ 31,000	▲ 58,694	▲ 27,694

▽ 説明

- ▼ 利用料金収入は野外美術館観覧料、工房等利用料、駐車場利用料である。平成30年度は、工房等利用料が伸び悩んだものの、年度当初より展覧会が好評であり、計画並の駐車場利用料が得られた。また、夏の野外美術館への集客イベントが好評であったことから、冬季休館の影響をよそに、利用料金として計画比で1,729千円の増収となった。
- ▼ その他収入とは、講習会受講料、企業協賛金、他の団体からの助成金等。一部の音楽鑑賞事業で入場者数が計画に達しなかったため、入場料収益が減少したものの、民間助成金を積極的に申請し、獲得できたことから、計画比3,555千円の増収となった。
- ▼ 指定管理業務支出について、当年度中は民間の助成金などの決定を受けて、内容の充実を図り、委託費や諸謝金などが増加したこと、施設老朽化に伴う計画外の修繕に費用を要したことなどから、計画に比して33,082千円増加している。
- ▼ 自主事業支出は、助成金の獲得をうけて、バレエ30周年記念公演において、ジャズとバレエのジャンル融合に取り組むなど、委託費が増加し、計3,888千円増加した。なお、当年度中においては、財団の自己資金を活用して、「バレエセミナー30周年記念バレエ公演」などの事業にも取り組んだ。
- ▼ この結果、収支差引額は計画比で▲27,694千円となったが、過去の経営努力により獲得した財産により対応した。

経費節減や助成金獲得には努めたものの、計画よりも収入は減少し、支出については増加した。そのため、純利益は計画比で27,694千円の悪化となった。平成29年度は計画比57,244千円の悪化であったため、計画対比では良化は見られたものの、ひきつづき経営改善に取り組む。

来年度は、魅力ある事業展開で、集客を強化し、収益の確保に努めるとともに、費用執行の管理を徹底し、収支状況の改善に努める。

A	B	C	D

収支差額が計画比で約28,000千円のマイナスとなった。収入では、利用料金収入及び自主事業収入が増収となった影響により約9,000千円増収となった一方、支出では、事業充実を図るための委託費や諸謝金等の増や施設老朽化による計画外修繕費が高み、全体として計画比約28,000千円の赤字となっている。

民間助成金の積極的な獲得を図るとともに、自己資金を活用した自主事業の実施や、設備投資による利益還元を行っている点については評価できるものの、収支が計画比で大幅に悪化していることから、施設稼働率の一層の向上や、主催事業における収支改善を図るとともに、安定的な事業運営を確保するため、より緻密な事業計画及び予算編成を作成されたい。

<確認項目> ※評価項目ではありません。

- | | | |
|---|---|----|
| ▽ 安定経営能力の維持
当団体の財務状況等は、債務超過、累積欠損の状態になく、自己資本比率が50%以上等のため、経営の健全性が保たれており、安定経営能力が維持されている。 | 適 | 不適 |
| ▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応
【札幌芸術の森】
【本郷新記念札幌彫刻美術館】
▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対応した。
▼ オンブズマンについては、案件は生じなかった。
▼ 暴力団関係については、案件は生じなかった。 | 適 | 不適 |

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>【札幌芸術の森】 平成30年度の総入園者数は351,955人で、前年度より約81,000人減少した。この主な要因としては、平成30年9月から平成31年2月にかけて、園内全域で大規模工事工事を実施したことに伴い、美術館や工芸館、レストラン棟を休館したこと、また、台風21号や北海道胆振東部地震の影響により11日間、臨時休園したことが挙げられる。また、芸術文化を推進する付帯事業である駐車場の管理運営については、駐車台数が49,700台と、前年度より約150台の微減となった。</p> <p>主催事業である音楽・舞台芸術事業について、「サッポロ・シティ・ジャズ」は、メインとなるライブ会場を大通公園のテントから札幌市民交流プラザに移し開催した。夏は野外ライブを中心に、200人を超える市民が札幌駅前通を行進するオープニングパレードをはじめ、パークジャズライブ、芸術の森野外ステージでのノースジャムセッションを開催し、冬は札幌文化芸術劇場hitaruの舞台機構を駆使したシアタージャズライブや様々な教育普及プログラムを展開した。</p> <p>札幌芸術の森バレエセミナーは30周年記念として、スペシャルガラ公演を開催。バレエセミナー主任講師であるジョゼ・マルティネズが監修し、世界トップクラスのダンサーとともにオーディションで選考された子どもバレエダンサーたちも出演し、華やかなプログラムとなった。</p> <p>「ジャズの種第オーケストラ&フォレスト・オブ・ニューアーツ」では、札幌と道内4地域のジャズスクールの子どもたち150名が大オーケストラを編成し演奏を披露した。また、札幌のダンサーがジャズにアレンジされた映画音楽にのせて、華やかなパフォーマンスを繰り広げた。</p> <p>展覧会事業では、「リサ・ラーソン展」、「フリーゲル展」、「札幌美術展 五十嵐威暢」の他、計4本の特別企画展を開催した。工芸分野では、「北と手仕事展」や「0さいからのげいじゅつのもり」の他、計6本の特別企画展を開催した。</p> <p>工芸事業では、陶芸や木工、染織など8つの分野で講習会を約440回開催し、約6,000人が参加した。一部の講習会では、美術館の展覧会と連動して開催することにより、芸術の森ならではの「鑑賞」と「制作」を一度に体験できる機会を提供した。</p> <p>育成事業では、「札幌ジュニアジャズスクール」、「バレエセミナー」、「縄文太鼓でアートキャンプ」の他、「ビッグバンドプロジェクト」等の芸術創造事業を実施した。</p> <p>利用促進事業では、野外美術館の活性化を目的に、夏休み期間に野外美術館を舞台とした謎解きゲームを企画・実施し、約5,700人の集客を記録した。</p> <p>施設の維持管理については、老朽化に伴う園内各施設や園路の補修、冬季の除雪の他、来園者が多い事業の開催にあたっては、お客様の誘導等、迅速な対応に努め、安全で快適な環境を安定的に提供することができた。</p> <p>札幌芸術の森の設置目的達成の指標のひとつとなる総入園者数については前述のとおり結果となったが、他方、もうひとつの指標となる利用者の満足度については、施設に対する総合的な満足度は93.5%、職員の接遇に対する満足度は93.2%と、いずれも要求水準となる80%を超える高い評価を得ることができた。</p>	<p>第4期指定管理期間の2年目については、大規模工事等の予定はなく、通年で開園・開館できることから、音楽・舞台芸術、美術、工芸の各分野における専門知識や事業運営のノウハウを活かした事業を継続するとともに、新たに各分野が融合する事業を展開する。</p> <p>また、事業展開にあたっては、芸術の森の大きな魅力である野外美術館を中心とする「自然」を最大限に活かし、自然と芸術が融合する事業を積極的に実施する。</p> <p>育成事業では、子どもから大人まで様々な世代を対象として、人材育成に関する事業を実施することにより、アーティスト、ボランティア、愛好者等、芸術文化を担い、支える人材を育成するとともに、芸術文化の体験を通して、豊かな情操と想像力、多様性を認める感性を育む機会を提供する。</p> <p>集客にあたっては、ホームページやSNSを活用した積極的な魅力発信を図るとともに、外部機関との連携を図り、リピーターの増加と観光客の誘致促進につなげる創意工夫を継続する。</p> <p>施設の維持管理については、来園者が安心、快適な環境で芸術文化活動に専念できるよう、安全第一に環境整備と施設の維持管理に努める。</p>

<p>【札幌彫刻美術館】 本館入館者数が、指定管理受託後初めて1万人を超えた。 展覧会事業では、若手の育成を目指す本郷新記念札幌彫刻賞の受賞記念展として「加藤宏子展」を開催。「本郷新の見た異国」、「本郷新、その生涯と作品」の2つのコレクション展で、世界各地を見聞した本郷新の視野の広さと彫刻制作に賭したその生涯を辿ることにより、本郷新芸術をより深く掘り下げる取り組みを行った。 「本田明二展」では、本郷新と親交の深かった同氏をとりあげ、その影響関係を探ることで、延いては、本郷新の魅力にも迫ることへとつながった。 「オペラの衣裳と舞台美術展」では、文化芸術劇場のこけら落としの公演「アイーダ」にあわせてオペラの魅力を紹介した。 その他の事業では、ハロー！ミュージアムや「わくわく★アートスクール」、近隣小学校への協力などの教育活動を通じて、子どもたちに充実した体験を提供することができた。また、美術館めぐり・造形教室などの人気事業は継続して内容の充実を努め、サンクスデーでは幅広い層に美術館をPRすることができた。 施設の維持管理については、日々の点検により故障等の早期発見・早期対応に努め、業務仕様書や管理業務の計画書に基づき適切に実施することができた。</p>	<p>【札幌彫刻美術館】 本郷新の顕彰、彫刻を中心とした文化芸術の振興という基本に軸足を置き、彫刻美術館の特色を活かした魅力ある事業展開に引き続き努め、入館者の増加を図っていく。事業の企画立案に当たっては、彫刻芸術の真価を伝えるものから、広く立体芸術の魅力を伝えるものまで、様々に展開する。作家本人のアトリエであった記念館では、建物がもつ雰囲気を活かし、本郷新の芸術と業績を豊富な作品と資料により紹介するとともに、館が所蔵する彫刻芸術についての資料を広く一般に公開し、市民の文化芸術活動の支援を推進する。 普及事業では、ハロー！ミュージアムや長年携わってきた近隣小学校への協力など、引き続き教育の場としての美術館の特色を打ち出していく。 また、地域とのつながりを引き続き重視し、より地域に親しまれる美術館を目指すとともに、財団他施設や民間企業との連携・協力関係を築き、事業展開の幅を広げていく。 施設の維持管理については、札幌市と協議しながら、安全性の向上と快適な環境づくりに努める。</p>
【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>両施設とも、全般的に本市の要求水準を満たしており、適切な運営管理がなされている。 主催事業について、サッポロ・シティ・ジャズでは、「ミュージックテントライブ」に代わる取組として「シアタージャズライブ」を初開催したほか、札幌市民交流プラザを拠点に様々な普及啓発事業を実施し、施設の集客交流機能を生かした効果的な取組を行っている。また、彫刻美術館では、主催展覧会にあわせた多彩な関連事業を開催する等により指定管理移行後初めて入館者数1万人を突破するなど、多くの市民に多彩な文化芸術に親しむ機会を提供していることについては高く評価できる。 芸術の森の収支状況については、民間助成金の獲得や利益還元を図る取組は評価できるものの、収入では、利用料金収入及び自主事業収入の増収により収入全体では計画比増となった反面、事業支出等、支出全体が計画を大きく超過した結果、大幅なマイナス決算となっている。安定的な施設運営を行っていくためには、事業全体の今後のあり方についての再検討を含め、収支改善の取組が必要である。</p>	<p>芸術の森については、大規模工事に伴う、美術館や工芸館、レストラン棟の休館、また、台風21号や北海道胆振東部地震の影響による臨時休園等の影響も少なくないが、それを考慮しても、近年実績と比較して総入場者数及び屋内美術館入場者数が大きく落ち込んでいるほか、個別の施設についても利用件数や人数等が計画を下回っている施設が多いことから、その要因を分析し、利用状況の改善を図ること。また、野外ステージ等の一部施設については、稼働率が低く、施設の有効活用が図られていない状況にあることから、引き続き利用促進に向けた取組に努めること。 安定的な事業運営を確立するため、より緻密な事業計画、予算編成により、収支改善に努めるとともに、事業全体の今後のあり方について再検討を行うこと。なお、事業運営に際しては、地域住民の活動拠点として、隣接する市立大学や地域団体との連携を深めること。 また、利用者の安全確保については、定期的な点検及び維持管理、委託業務等の適切な監督・履行確認等の徹底を図ること。 また、経理関係事務の再点検、管理監督者の役割及び意識の徹底、適切なサイクルでの配置転換、コンプライアンス研修の実施、財団所管の実行委員会に対する内部監査の実施、これらの取組状況の報告については、引き続き取り組むこと。</p>